

あなたもチャレンジ! 家庭菜園

ダイコン
畑は小石を除き、よく耕す

園芸研究家
●成松次郎

ダイコンのピリッとした辛味はイソチオシアネートで食欲を増進します。消化酵素のジアスターゼは胸焼け、胃もたれを解消してくれます。葉にはビタミンC、葉酸、カルシウムと食物繊維が豊富。家庭菜園では新鮮な葉も利用しましょう。[品種]青首ダイコンが全盛で、「耐病総太り」(タキイ種苗)、「冬自慢」(サカタのタネ)は若取りから利用でき、太くなくてもス入りしにくい品種です。煮物用には「大蔵大根」(サカタのタネ他)などもお薦めです。また、地方固有の品種を作るのも家庭菜園ならではの楽しみです。

[栽培時期]生育適温が20度前後なので、一般地での種まきの適期は9月、収穫期は11~12月となります。

[畑の準備]畑を深く耕して、土を細かく砕き、1平方m当たり苦土石灰100gを土とよく混ぜ、その後、化成肥料(N-P-K=10-10-10%)100gを施用します。根の下に障害物があると枝根や曲根のもとになるので堆肥は与えません。畝幅は70~80cmで、畝は排水が良く耕土の深い畑では平らにしますが、耕土の浅い畑は高畝を作ります(図1)。

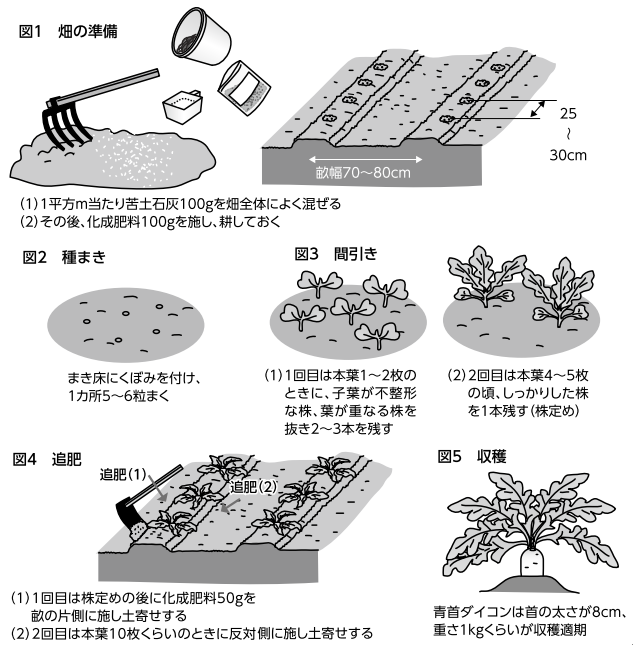
[種まき]株間25~30cm、まき床にくぼみを付け、1カ所5~6粒まきます(図2)。

[間引き]1回目は本葉1~2枚のときに子葉が不整形な株、葉が重なる株を抜いて土寄せします。2回目は本葉4~5枚の頃しっかりした株を1本残します(株定め)(図3)。

[追肥・土寄せ]1回目は株定めの後に土寄せし、2回目は本葉10枚ぐらゐのときにそれぞれ1平方m当たり化成肥料50gを畝の片側に施して土寄せします(図4)。

[病虫害の防除]小さいときの害虫の被害は甚大なので、初期防除に重点を置きます。アブラムシ、コナガなどには虫よけネットを被覆したり、土壌施用農薬「GFオルトラン粒剤」を種まき前に使用して予防します。

[収穫]青首ダイコンは首の太さが8cm、重さ1kg程度が適期です。若取りして、若い葉も利用しましょう(図5)。



効薬剤が少なく、全滅することがあるため、予防に重点を置く必要があります。予防策には、①連作を避ける。②早播きを避ける。③圃場は高畝にして排水を良くする。④1株でも発病したら、早めに抜き取る。⑤ヨトウムシ類、アオムシ、コナガ等の害虫の被害を受けると、そこから病原菌が侵入しやすいので、害虫防除を徹底する。⑥比較的耐病性のある早生種(現時点では本病に対する耐病性品種はない)を選ぶ、等があります。病徴がみられたら、一刻も早くZボルドー500倍液を散布して下さい。

- 夏秋播き野菜の病虫害名が不明で、防除薬剤が解らない場合は、被害を受けた部位(葉など)や実物を営農販売課または各支店までご持参下さるか、症状を電話でお知らせ下さい。
- 薬剤散布に際し、展着剤アブローチB I (1,000倍)を使用することをお勧めします。

台風対策

○パイプハウスの補強

- ・台風の通過が懸念される場合は、パイプの抜け上がりを防止するために、らせん杭を設置したり、パイプ埋設箇所の土を固めて下さい。さらに、筋交い、控え柱の点検を行い、不具合や不備な箇所があれば補修して下さい。
- ・直管パイプ基礎部の埋め込みが浅くなっている場合は土を補給し、絞め固めて下さい。
- ・ビニールの浮き上がり防止のために、ハウスバンドを締め直して下さい。
- ・万が一、台風が来た場合は、締め切っていたハウスのサイドを台風通過後早急に開け、ハウス内で栽培中の野菜類の高温被害の防止に努めて下さい。

○露地野菜

- ・台風が通過すると予想される場合は、ダイコン、キャベツ等の間引きは台風通過後に実施して下さい。
- ・万が一、台風の通過や強風に遭遇した場合は、通過直後に各種病害の発生予防のため、ダコニール1000の1,000倍液またはZボルドーの500倍液を散布して下さい。
- ・降雨により、地表水等の滞水があったら、速やかに排水して下さい。2日以上滞水すると、ほとんどの秋冬野菜類は軟腐病に罹病します。

果樹

★温州ミカン

○ハダニ類の防除

発生の有無を観察し(=葉の裏面を注意深く見ると、極小さい赤い虫が活発に動き回っています。また、葉の表面が白色のカスリ状になっていれば多発している証拠)、実物を確認したり、カスリ状の葉が数多くみられたら、ダニトロンフロアブルの2,000倍液またはダニカット乳剤20の1,000倍液を早急に散布して下さい。

2回散布し、予防防除に努めて下さい。
・アオムシ、ヨトウムシ類、コナガ、アブラムシ=こまめに圃場を観察し発生がみられたら、トレボン乳剤の2,000倍液を散布して下さい。

★キャベツ

○追肥=締まった品質の良いキャベツ作りの基本は適期・適量施肥です。

- ・1回目=定植10~15日頃に、「そさい5号」を3g/株施用して下さい。
- ・2回目=結球始めの9月下旬~10月上旬に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・生育が劣る場合は、10月中旬~下旬に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。生育が順調であれば3回目の追肥は不要です。

○病虫害防除=早期発見・早期防除

- ・べと病=多雨、多湿が続くと多発します。早期発見に努め、発病がみられたら、ダコニール1000の1,000倍液またはジマンダイセン水和剤600倍液を葉裏までかかるよう丁寧に散布して下さい。
- ・軟腐病・黒腐病=低温多湿時や台風通過後の肥料切れの圃場で多発します。発病がみられたら、Zボルドー500倍液を散布して下さい。
- ・アオムシ、ヨトウムシ類=加害初期(発生初期)に、ジェイエース水溶剤1,500倍液またはオルトラン水和剤2,000倍液またはトレボン乳剤2,000倍液を散布して下さい。

★ハクサイ

○定植と間引き=ハクサイの苗は軟弱で、生育初期に風雨や害虫の被害を受けやすいため、1穴に2本植えにし、活着して生育が旺盛になる頃(本葉が6~7枚頃)に、生育の良い方を残して1本にして下さい。

この時、残した苗の株元がぐらつかないように、土を少し寄せて下さい。

○追肥=キャベツ同様、よく締まった品質の良いハクサイづくりの基本は、適期・適量施肥です。

- ・1回目=本葉が10枚になったら、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・2回目=1回目の追肥施用後、20日後に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。
- ・2回目の追肥後、生育に不揃いがみられたら、生育の悪い株のみに2回目の追肥から2週間後に「そさい5号」を5g/株施用して下さい。

(注)ハクサイの球は80~100枚の葉で形づくられています。播種が遅れると結球を始める10月中旬頃までに葉数が不足するため、球のしまりが悪くなります。逆に早播きし過ぎると、発芽直後の高温により、苗の育ちが弱ってしまいます。例年、しまりの悪いものや球が大きにならない場合は、播種時期に気をつけて下さい。⇒ハクサイは非常にデリケートな野菜です。

○病虫害防除=早期発見・早期防除

- ・軟腐病=症状は、結球直前になって、下葉の付け根や茎の地際部が腐り始め、次第に葉が外側に倒れ、全体が腐って悪臭を発します。ハクサイの病害の中で最も注意が必要な病気で、多発すると有

水稲

本格的な実りの秋を迎え、連日稲刈り作業に追われている中、今年の出来ばえは如何でしょうか。先月に引き続き、今月はコシヒカリの刈取り、更にあきさかりの刈取りと、まだまだ忙しい日々が続きます。最後まで気を抜かず、詰め作業を適切に行い、良質な米に仕上げてください。

★あきさかりの適期刈取りによる胴割れ米の発生防止

あきさかりは穂や籾が黄化しても茎葉が緑色をしているので、刈り取り時期を見誤ることがあります。籾水分25%以下、積算気温1,070℃を目安に適期刈り取りを励行し、刈り遅れによる胴割れ米の発生防止に努めてください。

※その他刈取りに関する注意事項については、先月号を参考にしてください。

★刈り取り跡の雑草対策

近年、クログワイやオモダカなど多年生の難防除雑草が増えています。

毎年発生が多い水田では、稲刈後雑草の発生を待って、ラウンドアップマックスロードや草枯らしM1C等の除草剤で防除を行ってください。

★秋の田起こし

来年のおいしい米づくりに向けて、刈取りが終わった水田は早めに耕起してください。

稲わらを十分腐熟させるために、いね一番や元気3兄弟などの土づくり肥料は、気温が高い10月中に行うことが重要になります。

露地野菜

連日の高温に伴い、各種害虫類が多発しています。特に、アオムシやヨトウムシ類等の土壌害虫が多く見られますので、既に秋冬野菜の播種を終えた場合は、圃場の観察を十分に行い、各種害虫の発生に留意して下さい。これから播種される場合は先月号に記載したとおり土壌処理剤を必ず施用して下さい。なお、播種や定植後、無降雨が1週間以上続き、土の乾燥が続いたら各野菜とも早朝または夕方にタップリ灌水して下さい。

★ダイコン

○間引き=1回の間引きで1本にせず、必ず2回に分けて行って下さい。残す苗は先月号を参照して下さい。

- ・1回目=本葉が3枚になったら、奇形葉や生育の遅れた苗の間引き、2本立てにして下さい。
- ・2回目=本葉が5枚になったら、葉色が特別濃いものや薄い株の間引き、最終1本立てにして下さい。

○追肥=追肥は間引き直後に施用して下さい。

- ・1回目=1回目の間引き直後に、「そさい5号」を3g/株施用して下さい。
- ・2回目=2回目の間引き直後に、「そさい5号」を5g/株施用して下さい。

○病虫害防除=予防防除・早期防除の徹底

- ・軟腐病=低温多湿が続くと多発します。今月下旬から10月中旬にかけて、低温・多湿が続く場合はZボルドー500倍液を交互に7~10日おきに最低